

「新しい文化条例検討委員会」での主な意見

「文化力」の定義

- ①地域の文化振興政策として打ち出された概念で使われたり、②軍事力、経済力と並ぶ第3の力として国益化の対象にされるなどあいまいであり、ここで定義すべき。
- 対象が文化なのか、文化芸術なのかを明らかにしないと幅が決まらない。
- 国の「文化経済戦略」は文化の国益化の姿勢が露わになっており、この流れに飲み込まれないよう、地域の文化振興政策であることを押さえないといけない。
- 「cultural power」ではなく、「cultural capital」(文化関係資本)である。

京都府の役割、「文化首都・京都」の意義

- 「京都」は重層的な日本文化史が今も流れ続けているという意味と同時に平安文化圏をイメージするので、各地域に根差した文化的な背景を強く意識しないとイケない。
- 二本柱として国内的には「共生」がポイントである。国際的には京都の文化力を日本の代表として、大きく世界に打って出ればいい。
- 京都は人を惹きつけるところ、地方に支えられてきたところであり、日本的な文化あるいは文化力の渦を起し、回し続ける責任を持つ必要がある。
- 地域に根差した生活文化を個人の生活に織り込み、個人の価値観に社会的なものへの意識を加えることが必要。
- 「共生」は、集落が減びるかどうかの危機的な状況の中で文化に何ができるのかという厳しいテーマであり、幅も広いので強く意識しないとイケない。
- 「共生」でも、「国際化」でもコミュニケーションやリレーション(関係性)が重要。
- 京都は大学が多く、芸術家もたくさんいるので関係性の豊かさを売りにでき、関係性の豊かさは「共生」であり、「多様性」に繋がる。
- 京都の文化を、世界に対して日本を代表する文化、日本文化のポイントとして捉えれば「文化首都・京都」というのは理解できる。
- 「文化首都」は首都を持たないEUが使い始め、持ち回りで移動し、固定的な概念ではないので、多様性、交流等の意味合いがないと、京都だけが文化首都と誤解される。

その他

- 日本の社会的な規範が世界から注目されているが、日本の文化の力を伸ばしていくことは世界人類への貢献に繋がる。
- 文化的土壌としての府域の美しい景観の保全も必要。